

# 事業概要

(平成26年度のまとめ)

# 目 次

I 概要	
1 京都府立図書館の概要	1
2 平成26年度の主な動き	1
3 平成26年度の利用状況等	2
II 図書館資料	
1 総資料・年間収集資料	3
(1) 総資料数	
(2) 年間収集資料数	
2 図書	3
(1) 資料数	
(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3 逐次刊行物	4
III 利用状況	
1 開館日	5
2 入館者	5
3 新規利用登録者	5
4 個人貸出	5
(1) 貸出者数	
(2) 貸出図書数	
(3) 借受提供数	
5 図書館等への貸出	6
(1) 相互貸借	
(2) 一括貸出（貸出文庫）	
6 学校への貸出	7
7 調査相談	7
8 障害のある方へのサービス	8
(1) 対面朗読サービス	
(2) 点字・音声資料貸出	
9 マルチメディア利用	8
10 複写利用	8
11 ホームページアクセス	8

## IV 事業

1	市町村連携・市町村支援	9
	(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
	(2) 連絡協力車	
	(3) 図書館・読書施設等職員研修	
	(4) 京都府図書館等連絡協議会	
	(5) その他	
2	学校支援・大学連携	11
	(1) 学校支援	
	(2) 大学連携	
3	調査研究・課題解決支援及び情報発信	12
	(1) 活用講座・館内見学会	
	(2) 講演会等	
	(3) 資料展示	
	(4) 地域連携	

## V 施設等

1	施設及び設備等	15
2	組織	16
3	経費	16

## VI 沿革

1	年表	17
2	歴代館長	20

【参考】	京都府立図書館運営基本方針及び京都府立図書館資料収集方針	21
------	------------------------------	----

# I 概 要

## 1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館は、明治31年に京都御苑内に開設後、明治42年に現在の京都市左京区岡崎に移転した。平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。

新館の開館にあたり「京都府立図書館の運営基本方針」を策定して図書館サービスの充実に努めてきたが、時代の流れとともに生じた新たな課題等に対応するため、平成24年8月に運営基本方針の見直しを行うとともに、平成24年度から平成27年度までの4年間の年次計画として「京都府立図書館サービス計画」を新たに策定した。

現行の運営基本方針は、①府内の図書館サービスの中核的図書館 ②府民の多様な活動を支援する図書館 ③情報化社会の進展に対応する図書館 ④京都から情報を発信する図書館 の4本の柱からなる。

京都府立図書館では、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろんのこと、府立図書館と府内の市町村立図書館等の蔵書を一括で検索できる「京都府図書館総合目録ネットワーク」を構築するとともに、府内全市町村を巡回して図書を搬送する「連絡協力車」を運行することなどにより、市町村立図書館等と連携しながら府内全域に均質な図書館サービスを提供するよう努めている。

## 2 平成26年度の主な動き

平成26年度は、学校支援の一環として実施している「学校支援セット貸出」（調べ学習や朝読書等に役立つ図書をテーマごとに数十冊のセットにして府内の学校に貸し出す制度）の実績が大幅に増加した。

（貸出冊数／平成26年度：14,557冊 ← 平成25年度：9,660冊 ← 平成24年度：5,993冊）

これは、連絡協力車が巡回していない府立高等学校の要望に応じて宅配便による直送を本格的に実施したこと、国語の教科書に掲載されている作品を集めたセットを新たに加えたこと、中・高生（ヤングアダルト）向けの読み物のセットをさらに充実させたこと、特に人気のセットを複数用意することにより重複する利用希望にも応えられるようにしたこと、教職員が集まる会議等において周知に努め利用を呼びかけたことなどによるものと考えられる。

なお、平成27年4月からは、全府立高等学校に連絡協力車を巡回させることとした。

また、公共図書館等が利用できる電子配信資料を活用することにより提供資料の充実を図ることとし、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」（国立国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版等の理由で入手が困難な資料約138万点について、公共図書館等でデジタル画像の閲覧や印刷等ができるサービス）を平成26年9月に開始した。

サービス開始時点において京都府内でこのサービスを利用できる公共図書館は当館を含めて

2館のみで、印刷も可能としているのは当館のみであったことから、ときに利用待ちができる状態となった。半年間の利用者数は316人であり、平成27年度のシステム更新に併せて閲覧端末の増設を予定することとした。

なお、「サピエ／視覚障害者情報総合ネットワーク」（日本点字図書館が管理し、デジデータなどの情報を提供するネットワーク）のサービスについても、平成27年4月からの開始に向けて平成26年度中に準備を進めた。

その他、当館の存在や取組をより多くの府民に知っていただけるよう一層の広報に努めることとし、京都市動物園と連携した講演会「動物園は学びの場」や京都水族館と連携した文化の日イベント「オオサンショウウオのオオさん・ショウさんが1日館長になります！」を新たに実施したほか、ラジオ番組や観光関連書籍、フリーペーパーにも数多く取り上げられた。

他方当館は、京都府が管理する施設を対象に行われている「府民利用施設のあり方検証」の平成26年度の対象施設となり、「見直すべき施設」と区分された。

この検証結果において、市町村支援や来館者に対する直接サービスのあり方等について再検討する必要があるとされたことを受け、平成27年度には外部有識者による意見聴取会議を設置し、今後の図書館サービスのあり方について検討することとしている。

### 3 平成26年度の利用状況等

区 分	平成26年度	平成25年度
開 館 日 数	286 日	285 日
総 資 料 数	1,208,600 冊	1,178,664 冊
入 館 者 数	— (機器故障)	284,080 人 (1日平均 997 人)
新 規 利 用 登 録 者 数	5,019 人	5,415 人
個 人 貸 出 冊 数	208,572 冊	205,016 冊
インターネット予約冊数	4,716 冊	4,214 冊
マルチメディア利用者数	32,520 人	33,290 人
調 査 相 談 件 数	17,063 件	15,450 件
複 写 利 用 件 数	248,846 枚	295,633 枚
ホームページアクセス件数	540,424 件	384,035 件
図 書 館 等 へ の 貸 出 冊 数		
・府内市町村立図書館等 (うち相互貸借)	52,536 冊 (21,001 冊)	49,722 冊 (20,900 冊)
(うち貸出文庫)	(31,535 冊)	(28,822 冊)
・他府県公立図書館・大学等	707 冊	799 冊
・学校図書室	17,004 冊	12,704 冊
(うち学校支援セット貸出)	(14,557 冊)	(9,660 冊)

## Ⅱ 図 書 館 資 料

### 1 総資料・年間収集資料

(1) 総資料数	1,208,600 冊	
	うち図書	923,527 冊
	うち逐次刊行物（図書換算）	285,073 冊
(2) 年間収集資料数	図書（視聴覚資料を含む。）	25,805 冊
	逐次刊行物（購入分のみ）	400 タイトル

### 2 図書

(1) 資料数 (単位：冊)

区 分	26年度受入冊数				26年度末資料数			
	購 入	寄 贈	その他		児 童 書	京 都 資 料	外 国 語 資 料	
閲覧・貸出用	16,806	12,547	3,211	1,048	815,317	47,074	23,242	19,316
図書資料	16,345	12,204	3,111	1,030	791,587	47,074	23,242	19,316
視聴覚資料	461	343	100	18	23,730	-	-	-
貸出文庫等	8,999	8,971	28	-	108,210	72,369	-	5
合 計	25,805	21,518	3,239	1,048	923,527	119,443	23,242	19,321

(注)外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分 類	26年度末冊数	( 百 分 比 )
0 総 記	39,834	( 4.9 )
1 哲 学	40,424	( 5.0 )
2 歴 史	86,233	( 10.6 )
3 社 会 科 学	172,148	( 21.1 )
4 自 然 科 学	50,756	( 6.2 )
5 技 術	58,151	( 7.1 )
6 産 業	42,600	( 5.2 )
7 芸 術	56,517	( 6.9 )
8 言 語	14,845	( 1.8 )
9 文 学	157,709	( 19.4 )
小 計	719,217	( 88.2 )
教 科 書	23,796	( 2.9 )
児 童 書	47,074	( 5.8 )
そ の 他	25,230	( 3.1 )
合 計	815,317	( 100.0 )

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料

(単位：タイトル・点)

区 分	26年度末タイトル数 (点 数)
C D	699 ( 840 )
C D - R O M	1,447 ( 1,570 )
D V D	2,128 ( 2,130 )
D V D - R O M	347 ( 347 )
ビ デ オ テ ー プ	3,172 ( 3,183 )
カ セ ッ ト テ ー プ	887 ( 2,710 )
マ イ ク ロ フ ィ ル ム	125 ( 8,141 )
マ イ ク ロ フ ィ ッ シ ュ	402 ( 3,730 )
デ イ ジ ー	1,079 ( 1,079 )
合 計	10,286 ( 23,730 )

障害者用資料

(単位：タイトル・点)

区 分	26年度末タイトル数 (点数)	
大 活 字 本	3,211 ( 3,211 )	
点 字 図 書	392 ( 1,530 )	
カ セ ッ ト テ ー プ	887 ( 2,710 )	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,079 ( 1,079 )	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	5,569 ( 8,530 )	

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区 分	26年度購入数	既存受入数
新 聞	16	110
雑 誌	384	10,575
合 計	400	10,685

### Ⅲ 利 用 状 況

1 開 館 日 286 日

2 入 館 者 — (機器故障により未把握)

3 新規利用登録者 5,019 人 有効登録者累計 105,904 人

(	京都市内	81.2 %
	その他府内	8.8 %
	他府県	10.0 %

4 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)

(1) 貸出者数 延べ 94,884 人 (1日平均 332 人)

(2) 貸出図書数 208,572 冊 (1日平均 729 冊)

うちインターネット貸出待ち登録サービスによる貸出図書数 4,716 冊

(3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者へ提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数
府内	市 町 村 立 図 書 館 等 (ア)	1,490
府外	国 立 国 会 図 書 館 (イ)	98
	他 府 県 立 図 書 館 (ウ)	640
	他 府 県 市 町 村 立 図 書 館 (エ)	388
	他 府 県 大 学 図 書 館 等 (オ)	22
	府 外 小 計	1,148
合 計		2,638

(ア) 市町村立図書館等の主な内訳

- 京 都 市：京都市中央図書館(64)、京都市右京中央図書館(26)、京都市伏見中央図書館(22)、京都市醍醐中央図書館(24)
- 乙訓地域：向日市立図書館(56)、長岡京市立図書館(65)、大山崎町立中央公民館図書室(50)
- 山城地域：宇治市中央図書館(91)、城陽市立図書館(98)、久御山町立図書館(30)、八幡市立八幡市民図書館(59)、京田辺市立中央図書館(74)、井手町図書館(29)、宇治田原町立図書館(30)、木津川市立山城図書館(85)、精華町立図書館(76)
- 南丹地域：亀岡市立図書館(93)、南丹市立中央図書館(48)、京丹波町中央公民館図書室(13)
- 中丹地域：綾部市図書館(70)、福知山市立図書館中央館(50)、舞鶴市立西図書館(34)、舞鶴市立東図書館(8)



- 丹後地域：宮津市立図書館(35)、与謝野町立図書館(10)、与謝野町立図書館野田川分室(23)、京丹後市立あみの図書館(24)、京丹後市立図書館弥栄図書室(17)、京丹後市立図書館久美浜図書室(11)
- 大 学：京都学園大学図書館(100)

(イ) 国立国会図書館の内訳

東京本館(58)、関西館(26)、国際子ども図書館(14)

(ロ) 他府県立図書館の主な内訳

福島県(13)、富山県(17)、福井県(18)、滋賀県(69)、大阪府(94)、兵庫県(73)、奈良県(41)、和歌山県(45)、鳥取県(12)、岡山県(31)、徳島県(14)、福岡県(21)、長崎県(8)、沖縄県(22)

(ハ) 他府県市町村立図書館の主な内訳

大阪市(38)、堺市(17)、茨木市(38)、吹田市(23)、豊中市(15)、枚方市(27)、神戸市(25)

(ニ) 他府県大学図書館等の主な内訳

関西外国語大学図書館(2)、神戸大学附属図書館社会科学系図書館(2)、神戸市外国語大学学術情報センター(4)

## 5 図書館等への貸出

(1) 相互貸借

(単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府内市町村立図書館等	21,001	26市町村他(※)
他府県公立図書館・大学等	707	
合 計	21,708	うち取寄せ申込みeサービスによる貸出2,686

(※) 市町村立図書館等の内訳

(単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数 ( 百分比 )
京 都 市	2,308 ( 11.0 )
乙 訓 地 域	2,346 ( 11.2 )
山 城 地 域	6,446 ( 30.7 )
南 丹 地 域	2,968 ( 14.1 )
中 丹 地 域	3,275 ( 15.6 )
丹 後 地 域	3,560 ( 17.0 )
府立総合資料館	28 ( 0.1 )
そ の 他	70 ( 0.3 )
合 計	21,001 ( 100.0 )

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

## (2) 一括貸出 (貸出文庫) (単位:冊)

区 分	貸出冊数	摘 要
貸 出 文 庫	31,535	9市町(組合)教育委員会

## 貸出内訳 (単位:冊)

教育委員会名	冊 数	教育委員会名	冊 数	教育委員会名	冊 数
向 日 市	509	南 丹 市	2,255	宮 津 市	12,755
大 山 崎 町	1,813	綾 部 市	1,420	伊 根 町	7,237
相楽東部広域連合	1,769	福 知 山 市	1,740	京 丹 後 市	2,037

## 6 学校への貸出 (単位:冊)

区 分	貸出冊数	
学校支援セット貸出	高等学校版	6,497
	市町(組合)立小中学校への貸出	600
	府立高等学校への貸出	5,797
	市町村立図書館等への貸出	100
	小中学校版	8,060
	市町(組合)立小中学校への貸出	5,235
	府立高等学校への貸出	1,695
	府立特別支援学校への貸出	426
	市町村立図書館等への貸出	704
	小 計	14,557
機 関 貸 出	府立高等学校への貸出	2,395
	府立特別支援学校への貸出	3
	市町(組合)立学校等への貸出	34
	私立学校への貸出	15
	小 計	2,447
合 計	17,004	

## 7 調査相談 (単位:件)

区 分	件 数
調 査 相 談	16,804
マルチメディア相談	194
市町村からの調査相談	65
合 計	17,063

## 8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス (単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	7	8	6	10	7	9	10	6	8	8	9	11	99
利用時間	14	16	12	20	14	18	20	12	16	16	18	22	198

(2) 点字・音声資料貸出 (単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テープ	10	-	-	2	1	3	3	2	-	-	1	-	22
C D	30	48	20	40	10	46	42	24	51	33	5	24	373
デイジー	28	16	11	12	12	14	26	18	53	33	22	13	258
合 計	68	64	31	54	23	63	71	44	104	66	28	37	653

## 9 マルチメディア利用 (単位：人)

利 用 区 分	利用者数(1日平均)
インターネット閲覧端末	24,433 ( 85 )
C D - R O M 閲覧端末	228 ( 1 )
A V プ ー ス	4,553 ( 16 )
外部データベース閲覧端末	2,188 ( 8 )
マイクロフィルム閲覧端末	802 ( 3 )
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	316 ( 2 )
合 計	32,520

(注) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスは9月から提供開始

## 10 複写利用 (単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	234,590	白黒229,200、カラー5,390
CD-ROM、外部データベース	6,730	
マイクロフィルム	3,416	
国立国会図書館デジタル化資料	4,110	9月から提供開始
合 計	248,846	

## 11 ホームページアクセス 540,424 件

## IV 事 業

### 1 市町村連携・市町村支援

#### (1) 京都府図書館総合目録ネットワーク

当館と府内の市町村立図書館等の蔵書を一括で検索できる「京都府図書館総合目録ネットワーク」を構築することにより、府民の資料検索の利便性の向上を図るとともに、図書館業務システムに連動させて、図書館間の相互貸借や情報交換、レファレンス等の市町村支援業務に活用している。

参加館の区分は以下のとおり。なお、26年度における参加館の増減や区分の変更はなく、年度末現在で府内全26市町村の図書館・読書施設及び1大学図書館の67館が参加している。

○データ提供館：自館の所蔵データをネットワークに提供する館

- ・分散型（横断検索館）【表中A】：横断検索により、リアルタイムでデータを提供
- ・集中型（データ提供館）【表中B】：定期的にデータを送信し、データベースに蓄積

○検索館【表中C】：自館の所蔵データの提供は行わず、図書館支援機能のみを使用する館

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧

（単位：館(室)）

図書館・読書施設名	A	B	C	図書館・読書施設名	A	B	C
府立図書館	○			笠置町中央公民館図書室			○
府立総合資料館	○			和束町体験交流センター図書室			○
京都市図書館(20館)	○			南山城村図書室			○
向日市立図書館	○			亀岡市立図書館	○		
長岡京市立図書館	○			南丹市立図書館（4館）	○		
大山崎町立中央公民館図書室		○		京丹波町公民館図書室等（3館）		1	2
宇治市中央図書館	○			綾部市図書館	○		
城陽市立図書館	○			福知山市立図書館（4館）	○		
久御山町立図書館		○		舞鶴市立図書館（2館）		○	
八幡市立八幡市民図書館	○			宮津市立図書館		○	
京田辺市立中央図書館	○			与謝野町立図書館（3館）	○		
井手町図書館	○			伊根町立公民館図書室			○
宇治田原町立図書館		○		京丹後市立図書館（6館）	○		
木津川市立図書館（3館）	○			京都ライトハウス情報ステーション			○
精華町立図書館	○			京都学園大学図書館		○	
				小 計	52	8	/
				合 計	60	7	

(2) 連絡協力車

府内の各市町村立図書館等との相互貸借や情報交換、府立学校への図書の搬送等のため、次の5コースにより62施設（41図書館等、21府立学校）へ毎週1回（一部2～3箇月に1回）、合計250回、連絡協力車を運行した。

また、巡回先となっていない府立学校の要望に応え、25年度に試行を開始した直送による搬送を26年度から本格的に実施した。

搬送実績

(単位：冊)

区 分	搬送冊数	摘 要	
市 町 村 等	府立図書館 ⇒ 市町村立図書館等	21,001	相互貸借
	市町村立図書館等 ⇒ 府立図書館	1,490	借受提供
	市町村立図書館等 ⇔ 市町村立図書館等	27,897	相互貸借
府 立 学 校	府立図書館 ⇒ 府立学校	2,398	機関貸出
学 校 支 援 セ ッ ト		14,557	直送を含む。
小 計		67,343	
寄 贈 図 書 等		389	
合 計		67,732	

搬送コース

コース	順 路
A	京都府立図書館→京都学園大学図書館→亀岡市立図書館→南丹高校(→南丹市八木図書室)→南丹市立中央図書館→農芸高校→京丹波町中央公民館図書室(→南丹市日吉図書室→京丹波町和知ふれあいセンター図書室→南丹市美山図書室)→北桑田高校→盲学校→京都ライトハウス情報ステーション→京都府立総合資料館→京都府立図書館
B	京都府立図書館→洛水高校→八幡市立八幡市民図書館→京田辺市立中央図書館→精華町立図書館→国立国会図書館関西館→木津川市立中央図書館→和東町体験交流センター図書室→南山城村図書室→笠置町中央公民館図書室→京都すばる高校→桃山高校→京都府立図書館
C	京都府立図書館→東稜高校→東宇治高校→宇治市中央図書館→宇治田原町立図書館→井手町図書館→城陽市立図書館→久御山町立図書館→大山崎町立中央公民館図書室→長岡京市立図書館→向日市立図書館→桂高校→京都市中央図書館→京都府立図書館
D	京都府立図書館→綾部市図書館→舞鶴市立西図書館→東舞鶴高校→大江高校→福知山市立図書館中央館→工業高校→京都府立図書館
E	1日目：京都府立図書館→宮津市立図書館→与謝野町立図書館(→与謝野町立図書館加悦分室)→加悦谷高校(→与謝野町立図書館野田川分室)→伊根町ほっと館図書情報室(→京丹後市立図書館丹後図書室→京丹後市立図書館弥栄図書室)→峰山高校弥栄分校(→京丹後市立図書館大宮図書室→京丹後市立図書館久美浜図書室)→久美浜高校→京丹後市立峰山図書館 2日目：→網野高校→京丹後市立あみの図書館→洛西高校→北嵯峨高校→嵯峨野高校→北稜高校→京都府立図書館

### (3) 図書館・読書施設等職員研修

市町村立図書館等が行う図書館サービスの充実に向けた取組を支援するため、職員を対象とする研修を毎年度実施している。

26年度は、経験年数に応じたステップ別研修として、相互貸借業務の初任者研修を5月に、レファレンス初級者研修を6月に、レファレンス中級者研修を10月に実施するとともに、府内各地域への出前研修として、「図書館の本を修理する講習会」、「どの子にも楽しい読書体験を（発達障害の子どもへの接し方）」、「ブックトーク講習会」をそれぞれ府北部・中部・南部で実施し、合計で延べ225人の参加があった。

### (4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」（略称：京 函 連 協<sup>きょう と れん きやう</sup>）は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、図書館機能を持つ府内の49施設で構成され、当館に事務局を置いている。

京函連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画（26年度の第23回大会は、大雨による福知山市街地の浸水被害を受けて中止）したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催するなど、他機関との連携にも努めている。

### (5) その他

25年度から、「図書館で、京都のええトコ再発見！」と題して、市町村立図書館等の特色や取組を紹介するパネル展示をエントランスホールで行っている。

各自治体の観光部局等の協力も得て観光パンフレット類を併せて提供することにより府内の各地域の魅力を発信する取組で、26年度は第4弾「亀岡市・南丹市・京丹波町篇」、第5弾「福知山市・綾部市篇」を実施した。

## 2 学校支援・大学連携

### (1) 学校支援

「学校支援セット貸出」は、調べ学習や朝読書に役立つ図書を当館において整備し、環境や文化、防災等のジャンル・テーマごとに数十冊のセットにして府内の小・中学校及び府立学校に貸し出す制度で、20年度に取組を開始した。当館では、学校のニーズを的確に把握してこの制度の充実を図るとともに、来館型調べ学習や図書館見学の受入も積極的に行うことにより、学校支援及び子どもの読書活動の支援に努めている。

26年度は、連絡協力車が巡回していない府立高等学校の要望に応じて宅配便による直送を本格的に実施したこと、中・高生（ヤングアダルト）向けの読み物のセットをさらに充実させたことなどにより、学校支援セット貸出の利用は14,557冊と前年度の1.5倍にまで増加した。なお、年度末における貸出セットは、小・中学校版が67種類、高等学校版が126種類となっている。

来館型調べ学習では、学校図書館の数十倍の規模の所蔵資料を使った調べ学習が可能のほか、図書館の利用方法や資料の探し方も学ぶことができ、府立京都すばる高校をはじめとして、小学校から大学・専門学校まで、延べ20校432人が来館された。

## (2) 大学連携

京都市立芸術大学との連携事業は3年目を迎え、26年度も引き続き、小説に出てくる人物や空想上の生き物をテーマに学生が制作した立体作品をエントランスホールで展示することにより、普段とは違う視点での読書の楽しみ方を提起した。

また、岡崎地域・梅小路地域の2大文化ゾーンの魅力発信を目的として京都市立芸術大学、京都市交通局及び京都水族館が企画した産官学連携イベント・キーワードラリーに協力するとともに、キーワードラリー開催期間に合わせて、京都市立芸術大学の学生による「梅小路公園・岡崎公園スケッチ展」も実施した。

京都教育大学の学生が当館の所蔵する教科書コレクションを使って研究した成果を展示する取組も新たに実施した。小学校の国語の教科書に掲載されている「ごんぎつね」について、昭和30年代から平成の始めまでの年代ごとの表記や挿絵、注釈等の違いがまとめられており、当該教科書ともに展示して各世代の来館者の興味を引いた。

例年の取組としては、京都大学の学生や卒業生を中心とするサークル「井戸端サイエンス工房」との共催により、「本を楽しむ、科学と遊ぶワークショップ 第5弾 はじまりの瞬間(とき)」を開催した。「はじまり」をテーマに研究者の話聞いた後グループワークでテーマのイメージを膨らませ、各自が図書館内を散策してテーマにつながる本を探し、見つけた本についてさらに参加者同士で語り合うこのイベントは、「1人では出会えなかった本との出会い」を提供するものとして好評を得た。

また、京都大学が主催する「アカデミックデイ」との連動企画として、京都大学の研究者が「今の仕事を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」など様々な視点でお勧めの本を紹介する特設コーナー「研究者の本棚」を閲覧室内に設置した。

## 3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

### (1) 活用講座・館内見学会

当館では、府民の調査研究に役立つ資料・情報の提供に努め、レファレンスサービス(相談業務)にも力を入れているが、利用者自らが当館の様々なツールを用いて資料・情報にたどり着くことができるよう「図書館活用講座」を実施している。

26年度は、「新聞記事の探し方」「判例の探し方」などの従来のテーマに加え、実践編として、当館の企画「京都タワーと半世紀」の展示・ブックリストが完成するまでに司書がどのように資料を探したかをお伝えする回も設け、通年で10回実施し90人が参加された。

毎月第3水曜日に定期的に行っている「館内見学会」では、「近代建築の父」と呼ばれ京

都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと、公共図書館では当館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること、書庫の資料の中には教科書や映画のシナリオなどのコレクションも含まれていること、来館者向けサービスの他に市町村立図書館支援や学校支援を行っていることなどをお知らせしている。

26年度は時代祭当日の臨時見学会を含めて13回実施したところ108人が参加され、「普段見られないところを見ることができて、これまで知らなかった図書館の役割や凄さが分かった。」という声が多数寄せられた。

## (2) 講演会等

様々な機関と連携して幅広い分野の府民講演会を開催することにより、府民の生涯学習を支援するとともに、当館の所蔵資料や取組をより多くの府民に知っていただく契機としている。26年度の開催実績は表のとおりである。

期日	事業名	演題	参加者数
4/17	京都市動物園連携講座	動物園は学びの場 ～京都市動物園でできること	40人
9/13	本を楽しむ、科学と遊ぶワークショップ (井戸端サイエンス工房共催事業)	「はじまり」の瞬間(とき)	25人
11/5	古典の日・読書週間記念講演会 (府立総合資料館連携事業)	『伊勢物語』と業平伝説 ～謡曲「井筒」の背景	82人
2/1	府立図書館・府立医科大学附属図書館 連携府民講演会	健康寿命を延ばすために ～京都府民のデータから	91人

## (3) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、京都に関することや季節の話題、時事問題などをテーマとして、関連する当館の所蔵資料を一箇所に集めた展示を通年にわたり実施している。作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている。

また、講演会やイベントと連動させた資料展示も行い、講演会等が終了した後も所蔵資料を使って知識を深めていただけるように努めている。

26年度の展示実績は表のとおりである(年度をまたぐ展示を含む。)

1 階 小 展 示	
明治の岡崎(3/28～6/25) 和菓子(6/27～9/24) 京都タワーと半世紀(9/26～12/24)	おこしやす～舞妓の世界へ～(12/26～3/25) 読んで深める琳派(3/27～6/24)
地下1階特設コーナー展示	
印象派の画家たち(3/8～5/21) 動物園を読む(3/8～5/21) 6月は環境月間です(5/23～6/25) 妖怪と遊ぶ(6/27～8/27) 仏像(8/29～10/22)	研究者の本棚(9/24～10/15) 京都水族館に遊びに行こう(10/11～11/16) 伊勢物語(10/24～12/24) 暦(12/26～2/24) 春は旅立ちの時(3/7～4/22)



地下 1 階 ミニコーナー 展示	
あいさつ・文書(3/20～4/13) さくら(3/28～4/13) 4月29日は昭和の日(4/15～4/30) お金のはなし(5/2～5/15) 赤毛のアンと村岡花子さんの世界(5/16～6/29) サッカーだけじゃない ブラジル(6/3～6/29) 海フェスタに行こう(7/1～7/31) 大文字、お盆(8/1～8/27) 自動車を見よう(8/29～10/1)	クール・ジャパン(9/2～9/30) 紅葉(10/2～11/9) 祝!ノーベル物理学賞受賞!(10/8～10/22) 11月22日は「いい夫婦の日」(11/2～11/30) 静かな読書の夜に…(12/2～12/27) 松下村塾をめぐって…(1/6～2/1) 宮尾登美子さんを偲んで(1/8～2/1) 梅に想う(2/3～2/24) 花粉(3/7～3/31)
2階映像資料ピックアップコーナー展示	
日本の近代化遺産(6/29～8/27)	

#### (4) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する当館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟して近隣の文化施設等と連携した広報活動を広く展開するとともに、館内では、近接する京都国立近代美術館及び京都市美術館で開催された展覧会の図録を集めた特設コーナーや、周辺の観光情報を紹介するコーナーを設置している。

26年度は新たに京都市動物園との連携講座「動物園は学びの場～京都市動物園でできること」を開催した。

広域連携としては、26年7月に舞鶴若狭自動車道（近畿自動車道敦賀線）が全線開通したことを受け、福井県立図書館との相互協力事業として同県の観光パンフレット約3,000部を利用者に配布した。

## V 施 設 等

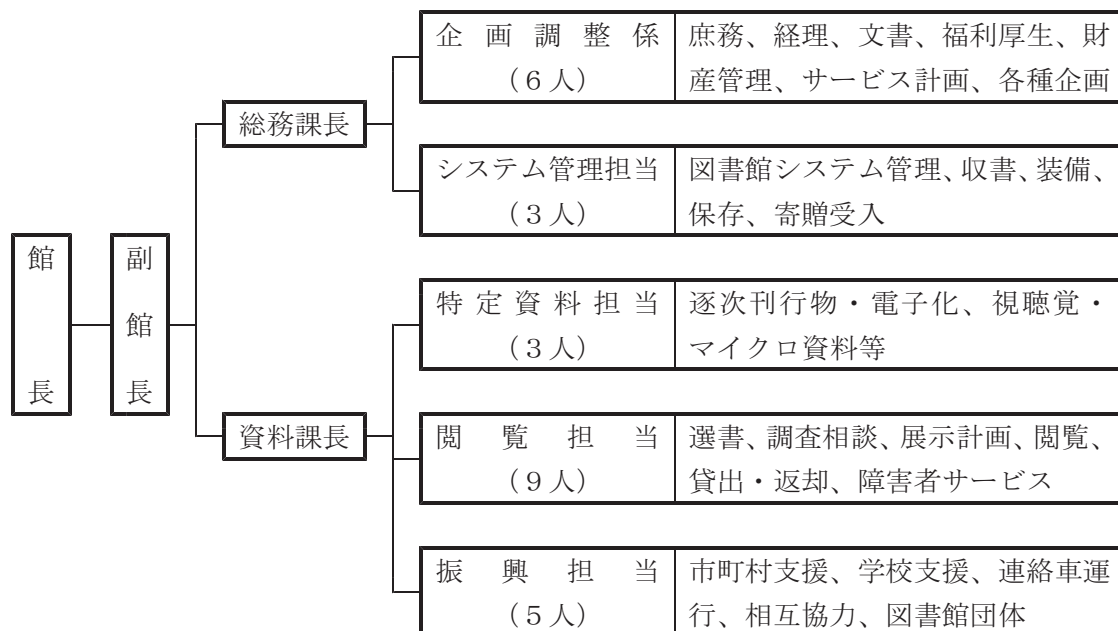
### 1 施設及び設備等

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地 TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : <a href="http://www.library.pref.kyoto.jp/">http://www.library.pref.kyoto.jp/</a>
開 館 日	平成13年5月11日 (建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
構 造 等	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上4階地下2階建 敷地面積 3,740㎡ 延床面積 7,477㎡ 地下2階2,296㎡、地下1階2,049㎡、1階1,129㎡ 2階746㎡、3階700㎡、4階557㎡
建 築 費	617,415万円 (外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊 (平成26年度末資料数 約120万冊) ・書架 (1,710㎡) 約10万冊 ・書庫 (1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 自動化書庫 約40万冊
利 用 者 用 端 末	OPAC21台、データベース閲覧端末6台、新聞記事データベース閲覧端末5台、インターネット閲覧端末19台、貴重書データベース閲覧端末1台、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末1台、CD-ROM閲覧端末2台、対面朗読室内利用者用端末2台 マイクロフィルム閲覧端末3台、映像ブース8台、オーディオブース4台
開 館 時 間	火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日 (祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日 (祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

## 2 組織 <27年4月1日現在>

常勤職員 29人

非常勤職員 21人 (館長1人・再任用3人・嘱託15人・臨時職員2人)



## 3 経費

(単位：千円)

科目	事項	決算額	摘要
図書館費	人件費	276,215	
	資料費	56,179	図書49,758、逐次刊行物6,421
	事業費	170,022	
	小計	502,416	
事務局費	人件費	4,928	
	事業費	20	
	小計	4,948	
合計		507,364	

# VI 沿革

## 1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903) 10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960) 10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933) 10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働センター内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
" 8月	学生自由閲覧室新設		教育庁係等設置規程一部改正により図書館に課制実施
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)	41年(1966) 11月	自動車文庫命名式(蝸川知事「あゆみ号」と命名)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
		42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成2年(1990)3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971)8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室 貸出方式をブラウン方式に切替	〃4月	連絡協力車事業本格実施
48年(1973)4月	上京分館館外貸出実施	〃6月	機構改革により本館は4課組織に
50年(1975)3月	身体障害者用便所・スロープ新設	3年(1991)3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
〃5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事 本館閲覧室を完全開架式に切替	〃6月	マイクロリーダープリンターのサービス開始
51年(1976)4月	本館閲覧用目録作成に着手	〃8月	「連絡協力車だより」発刊
〃6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	4年(1992)9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃7月	児童室改修工事	5年(1993)3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
53年(1978)3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備) 本館閲覧用目録整備完了	6年(1994)3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
54年(1979)3月	本館書庫改修工事	7年(1995)2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃4月	国会図書館からの図書貸出制度発足 本館自習室閉鎖	〃5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃11月	「専門情報機関要覧」刊行	〃8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
56年(1981)9月	移動図書館用電動集密書架設置	〃9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃12月	伏見分館改修工事	〃12月	京都府社会教育委員会議が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
57年(1982)7月	障害者サービス(対面朗読)実施	8年(1996)3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
58年(1983)2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃9月	新府立図書館建設基本計画の概要を公表 9月補正予算に基本設計費等を計上
〃3月	「京都府の公共図書館」刊行	9年(1997)3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
〃6月	伏見分館ブックポスト設置	〃4月	新館整備のため本館を休館
〃7月	図書館協力貸出本格実施	〃9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
59年(1984)12月	新着図書案内発行	10年(1998)3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
60年(1985)7月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)	〃7月	総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
61年(1986)8月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施		
61年(1986)8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会議へ諮問		
〃12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施		
63年(1988)3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
〃10月	図書館資料広域貸出事業開始 「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成20年(2008)	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催
〃 11月	新府立図書館新築工事起工式	〃 5月	インターネット貸出延長サービス開始
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修を開催	〃 9月	学校支援セット貸出開始
〃 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等を計上	21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジ版)を作成、配布
〃 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」を採用	〃 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)を開催(～22年3月)
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等を計上	〃 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレットを作成
〃 5月	国立国会図書館総合目録ネットワークに参加	〃 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)
〃 10月	新館竣工	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
〃 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化	〃 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した「府民講演会」を開催
13年(2001) 2月	「京都府図書館総合目録ネットワーク運営規程」を施行(1日)	〃 10月	新着図書お知らせサービスを開始
〃 4月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	23年(2011) 4月	祝日開館を実施
〃 5月	京都府教育委員会基本規則を一部改正して図書館の職を整備し、教育庁係等設置規程を一部改正して2課制(総務課:2係、資料課:4担当)を施行(1日)	〃 8月	館内全面禁煙の実施
〃 6月	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)を施行(1日)	〃 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベントを開催
〃 7月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程を施行(7日)	24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテストを実施
〃 8月	開館式(10日)	〃 8月	府立図書館サービス計画を作成
〃 9月	京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信を開始(10日)	〃 11月	図書館活用講座を実施
〃 10月	一般開館(11日)	25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプを作成
〃 11月	連絡協力車の毎週運行を開始(16日)	〃 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告
〃 12月	京都府図書館総合目録ネットワーク運用開始(1日)	〃 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送を実施
14年(2002) 4月	「子ども読書絵てがみコンテスト」実施	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施		府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始		
〃 5月	電話による貸出延長サービス開始		
〃 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加		
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始		

## 2 歴代館長

氏 名	在 職 期 間
三宅 五郎三郎	明治31年4月 ～ 明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月 ～ 明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月 ～ 明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月 ～ 明治37年3月
湯浅 吉郎	明治37年3月 ～ 大正5年5月
北島 貞顕	大正5年10月 ～ 昭和15年11月
内藤 乾吉	昭和15年11月 ～ 昭和22年7月
西村 精一	昭和22年7月 ～ 昭和38年10月
相馬 利雄	昭和38年10月 ～ 昭和45年8月
岩崎 彰之助	昭和45年8月 ～ 昭和47年4月
吉川 博明	昭和47年4月 ～ 昭和48年6月
庄林 二三雄	昭和48年6月 ～ 昭和49年4月
宮本 英男	昭和49年4月 ～ 昭和50年3月
布村 忠雄	昭和50年4月 ～ 昭和55年4月
長谷川 啓司	昭和55年4月 ～ 昭和56年4月
浜辺 一彦	昭和56年4月 ～ 平成元年7月
上田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月 ～ 平成元年9月
林 芳男	平成元年9月 ～ 平成4年4月
柴田 實	平成4年4月 ～ 平成6年5月
高木 多喜男	平成6年6月 ～ 平成8年3月
五十嵐 一郎	平成8年4月 ～ 平成10年3月
西山 隆史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月 ～ 平成10年5月
小山 雄一	平成10年6月 ～ 平成13年3月
中里 隆憲	平成13年4月 ～ 平成16年3月
津守 俊一	平成16年4月 ～ 平成19年3月
松田 定	平成19年4月 ～ 平成21年3月
勝間 喜一郎	平成21年4月 ～ 平成24年3月
宮野 文穂	平成24年4月 ～

# 京都府立図書館運営基本方針及び京都府立図書館資料収集方針

## 1 京都府立図書館運営基本方針（平成24年8月改定）

- (1) 府内の図書館サービスの中核的図書館として、図書館資料・情報の総合的な活用を図り、府全体の図書館サービスの充実を図ります。**【府内の図書館サービスの中核的図書館】**
  - ①市町村立図書館等との役割分担を踏まえた資料・情報の収集を行い、府内公共図書館の資料保存センターとしての役割を果たします。
  - ②市町村立図書館等と連携し、京都府図書館総合目録ネットワークの活用などにより、府内全域に均質な図書館サービスを提供します。
  - ③市町村立図書館等が行う図書館サービス充実に向けた取組を支援します。
  - ④市町村立図書館等や学校等と連携し、子どもの読書活動の推進を支援します。
- (2) 府民の暮らしや地域の発展に役立つ情報を提供し、府民の様々な活動を支援します。**【府民の多様な活動を支援する図書館】**
  - ①府民の調査研究に役立つ資料・情報を提供します。
  - ②府民の課題解決を支援するため、的確なレファレンス（調査相談）サービスを提供します。
  - ③多様化する府民ニーズに応える図書館サービスを提供します。
  - ④府民にとって利用しやすい施設づくりを進めます。
- (3) 情報通信技術を積極的に活用し、情報化の進展に対応した高度な情報サービスを提供します。**【情報化社会の進展に対応する図書館】**
  - ①情報通信技術の発展に対応した情報サービスを提供します。
  - ②電子ネットワークを活用し、積極的に情報を発信します。
- (4) 京都の文化の創造と活性化に寄与するため、関係機関と連携して、京都府立図書館の特色を生かした情報を発信します。**【京都から情報を発信する図書館】**
  - ①新施設の整備を進めている京都府立総合資料館等との連携により、京都らしさのある資料・情報を発信します。

## 2 京都府立図書館資料収集方針

京都府立図書館は、府民の調査研究や生涯学習を支援する府内の図書館ネットワークの中核的図書館として、その役割を果たすための資料を収集します。

- (1) 府民の調査研究の拠点、及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集します。
  - ①各分野の基本図書、研究書、専門書、資料集、逐次刊行物を収集します。
  - ②調査相談機能を果たすための参考図書等を収集します。
  - ③各分野の調査研究、生涯学習に役立つニューメディア資料を収集します。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、府内の市町村図書館活動振興のための資料を収集します。
  - ①市町村の図書館では揃えにくい専門書・研究書・資料集等を、府内の図書館からのリクエストを踏まえ収集します。
  - ②市町村図書館からのリクエストによる一般書は、他の市町村図書館に所蔵されていないとき、また相互協力による資料提供が難しいときは収集します。
- (3) 京都府立総合資料館が京都資料、歴史資料、美術資料、官庁資料に重点をおいた収集をしていることに鑑み、両館の機能を踏まえて資料を収集します。
  - ①京都関係資料は、市販された資料を中心に収集します。
  - ②歴史、美術分野の資料は、府民の生涯学習及び市町村図書館を支援する上で最低限必要となる基本図書及び参考図書を中心に収集します。
  - ③官公庁出版物は、市販される年次刊行物を中心に収集します。



事業概要（平成26年度のまとめ）

平成27年8月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <http://www.library.pref.kyoto.jp/>

